

ある。婦人矯風会は婦人に傾き、青年会は青年に限られ、共勵会だが稍、一般的ではあるものの、日本に於ける共勵会は改造的精神を全然欠いてゐる。我等は新しい意味で越宗派、越民族、越階級、越年齢、越性別の団結運動をせねばならぬ。

△今度のイエスの友の修養会で嬉しく思つたことは、イエスの友には兎に角貧しい者の友の多いことであつた。

△東京の水上児童の教育の爲めに献身的に努力して居られる輝く顔の持主である伊藤伝氏がその一人、東京根岸の貧兒の爲めに努力して居られる有隣団に働いて居られる山口菊太郎氏が他の一人、東京下谷万年町の貧民窟附近に神栄教会を設けそれを助けて日曜学校に努力して居る吉本健子さん等の三人組、その主任者の後藤文蔵君も見えて居た。婦人矯風会のホームに働いて居られる婦人も見えてゐた。東京新宿貧民窟にある二葉幼稚園に働いて居られる柳さんも見えてゐた。それで東京の古い貧民窟改良書案に関係あるものは凡て代表せられてゐたわけである。之に日暮里の愛隣団と、本所方面の方々が見えると、キリスト教的セトルメント、ウオークの研究団が組織出来るのであつた。その他福岡市から來られた元氣な八幡鷺城氏は出獄人保護の爲めに一生懸命であるし、工場関係の人々も多くあり、純粹労働者の方も四、五名貧加せられた。教育家も六、七名あり、北海道の婦省地からわざわざ來られた方もあり各種の階級を代表し実に愉快であつた。将来に於てイエスの友が各分科を持つ、年一度の大会に於て労働者伝道部、貧民窟改良部、労働組合部、消費組合部、共済組合部、出獄者保護部、禁毒運動部、農民組合部、社会衛生部、病人看護部、社会教育部、国際部と云つたやうなもの

を持つやうになり、イエスの友がヨブに対する神の忠告の如く「腰をひつからげて丈夫の如く」簡素なるいで立にて仕事をして、一年一度の修養祈禱会に共に祈ることが出来るやうになれば、どんなに幸福か知れないと思ひます。

△此度の修養祈禱会に、村島婦之氏が日本に於ける婦人労働問題の實際と、公娼及密娼問題の實際を詳しく報告せられたので、皆それに就て心を併せて祈つた。かうした實際問題を明示せられて、それに就て祈ることが出来ることはイエスの友の特権である。

△有島君が倒れ、武者小路君が脱線し、所謂人道主義作家が悲惨なる最後を遂げつゝあることは悲しむべきことである。それと云ふのもみなイエスを外側に置き、イエスを自己に所有しなかつた人達であつたからである。我達はイエスを内側に所有せねばならぬと思ふ。

△御殿場へは妻と純基と三人で行きましたが、新川へのお土産は純基の顔色の美くなつたことでありました。

△子供が産れてから、性愛以上に美しいもう一つの尊い世界が附加されたやうです。元來私は子供がすきでしたが自分の子供が産れると共に「神の表現」と云ふ意味がよくわかつて來ました。性愛以上に尊い世界があり、性愛以上に深い歡喜のあることをつくづく思はれます。
(大正十二年十一月号「トタン屋根の下より」)

十月

△震災後の救済運動に従事してゐて、悲しいのは、所謂教会とそのものの無能なことです。西洋の教会はもう少し力がある。日本では労働組合だけの力さへ持つて居らないのは驚いて了ふ。神戸の海員組合は僅かに数千の会員しか持た無い

のに、二万円近くの金を集め、大阪の関西労働同盟会は僅かに四千位の会員しか無いに労働者ばかりで五千円近くの金を集めてゐる。それにあの大きな神戸で他の金を取次して八千円近くその信者は四千その勢力は実に労働組合の幾十倍ある筈なのである。

△その癖クリスマスとか、会堂建築とか云へば発狂する位に金を出す。私はほんとに教会の教育の根本的に誤つてゐることを痛感せざるを得ない。

△私は教会を攻撃しない。然し私は断言する、日本には教会は無いと！之から我等が日本に教会を作らねばならぬ。「汝等互に相愛せよ、互に愛することによりて、我弟子たることを知るべし」と。互に愛することを教へ無い教会はお札を売つて居る神社と少しも変ら無い。いつ日本の教会が此処まで落ちて来たのか？云ふことをやめやう。魂を抜かれた西洋模倣の罪だ！

△今度の震災で私は東京市基督教青年会の山本邦之助氏始め石田友治氏などの活動は実に花々しいものであつた。彼等は殊に食は無いで、火事中の三日間を努力したのであつた。私は彼等の勇氣に奮激した一人である。多幸なれ友等よ。

△イエスの友の間で、吉本健子さんなどは水の中で二日間ゐられたそうである。イエスの友の中で最も困難せられたのは日本橋、下谷、深川、本所に住居せられてゐた方々である。私は彼等の為めに祈るものである。

△私は九月二日、神戸を出て四日横浜を経て東京についた。そして、六日直に神戸に去つたが、それより後約三十四回の講演をした。そして後の二十四回の中十数回は木村清松氏と共に中国、九州

で講演した。私より十四才上の木村氏の元氣なことには私も感心させられた。木村氏とは始めての旅行であつたが実に美しい印象を同氏から受けた。実に優しい親切なヤンキーの茶目な元氣な——それこそ永遠に若返りの法を知つてゐる男木村清松氏こそ一生懸命宗の開祖だと思つた。神よ、彼を恵め！

△東京に於けるイエスの友の活動も実に目醒ましいもの一つであつた。私は今日までに既に二回——渋谷道玄坂と、新宿と二ヶ所でイエスの友の路傍説教に加はつた。十月十七日神戸から合計五名のものが手伝に出て来た。

△貞の救済運動は此冬を通じて為されるものと私は考へる。その為めにイエスにあるものはその人類愛を發揮する意味に於て此冬に於ける緊張を破つてはならない。疾れ易き国民は早や此冬の準備を忘れて、その救済運動の手をひきつゝあるやうである。そんなことどうして、二百四十万の大衆が焼き出された今日の急を救ふことが出来るであらうか？

△「初めの愛」を離れた私の愛する日本の教会よ、初めの愛に帰れ！ 理窟ばかり達者で神の為めにいそしむことを忘れた国民は呪はる可きものである。

△私は日本各地の人々が救恤に対する同情を持ち乍ら救済に対する科学組織を欠いてゐることを見て驚いてゐる。私は中学校女学校に於て看護学を教へると共に、救済に対する一般的知識を教へる必要があると思ふ。

(大正十二年十一月号「亜鉛屋根の下より」)